

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 7月 31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
滋賀県甲賀市水口町泉1259番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
積水化学工業株式会社
滋賀水口工場 工場長 田中善昭

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	積水化学工業株式会社 代表取締役社長 加藤 敬太
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	東京都港区虎ノ門2丁目10番4号

1 事業者の概要

事業所の名称	積水化学工業株式会社 滋賀水口工場					
事業所の所在地	滋賀県甲賀市水口町泉1259番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	8	2	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 プラスチックフィルム製造業
事業の概要	プラスチックフィルム及び粉体樹脂、導電性微粒子など有機化合物の製造、販					
従業員の数	584	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	10	台	熱源設備	11	台
	照明設備	5300	台	コンプレッサ	29	台
	空気調和設備	900	台	その他	CGS	6台

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2023	年度	報告対象年度	2023	年度
	終了年度	2025	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

積水化学工業株式会社 滋賀水口工場 環境方針

滋賀水口工場は、積水化学グループの「環境経営方針」に基づき、生物多様性の保全や地球温暖化の防止、循環型社会の構築に貢献する取り組みを進め、持続可能な社会の実現を目指します。

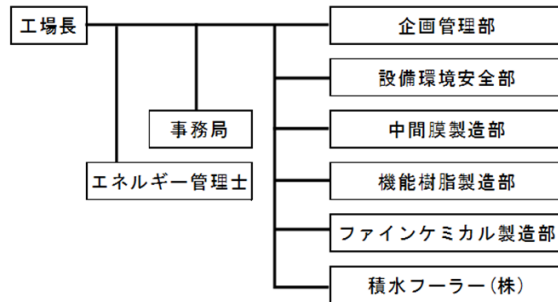
1. 環境関連の法規制等の要求事項を順守します。
2. 教育を通じた環境意識の向上に努めるとともに、生物多様性や自然環境の保全活動に取り組みます。
3. エネルギーの効率的活用を推進するとともに、温室効果ガスや有害化学物質等による環境負荷の低減と汚染防止に努めます。
4. 廃棄物の排出削減と再資源化を進め、またサステナビリティ貢献製品の開発と提供で環境と社会に貢献します。

上記の活動を推進するにあたり、環境目的及び目標を設定し定期的にそれらの評価、見直しを行い、継続的な環境改善に取り組みます。以上の方針を工場で働く全ての従業員、一次サプライヤー等組織のために働く人に周知、順守させると共に、お客様、地域社会の人が入手可能とします。

2 取組の推進体制

【推進体制】

・責任者 工場長



- ・上記体制に基づく省エネ委員会を1回/期行う
- ・製造部及び事務局による省エネ会議を1回/月行う

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

特記事項なし

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	蒸気ラインに自動弁を導入し生産停止時に閉止することで	23年度～	完了
2	運用改善	各建屋の蒸気使用量の見える化	24年度～	実施中
3	設備導入	場内照明のLED化	23年度～	実施中
4	運用改善	配管ループ化及び末端圧管理強化によるコンプレッサー設定圧の適正化(下げ調整)	23年度～	中止
5	運用改善	並列する冷水機に台数制御装置を導入し過剰運転を抑制	24年度～	実施中

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1		該当なし		
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記の取組などにより2022年度を基準年度として以下の数値目標の達成を目指します。</p> <p>エネルギー使用量(エネルギー購入量-エネルギー販売量) 原単位 = $\frac{\text{エネルギー使用量}}{\text{生産量}}$ で年間1%削減</p> <p>目標設定の考え方 ・エネルギーの大半を化石燃料を変換して得た蒸気、電気で賄っており、エネルギー使用量が生産量の増減に影響され増減するため母に生産量を採用 ・化石燃料から生成したエネルギーの一部を他社へ供給しておりその増減は当社の取組と無関係のため除いて計算を行う</p>	前年対比101.7%に増加

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		(23)年度	()年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	31,721	31,662			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	60,155	57,654			
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	60,155	57,654			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂					
CH ₄	t-CO ₂					
N ₂ O	t-CO ₂					
HFCs	t-CO ₂					
PFCs	t-CO ₂					
SF ₆	t-CO ₂					
NF ₃	t-CO ₂					
エネルギー等原単位の推移		0.536	0.540			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光発電機の導入検討
2	ボイラー燃料の水素ガスへの転換を検討
3	メタネーションなどカーボンフリーガスの購入を検討
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	1,610 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績	・エネルギーマネジメントシステムの導入				

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		(23)年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	#####	#####			
上記のうち自家消費量	kWh	23,008	22,400			

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況																								
<p>「サステナビリティ貢献製品」 お客様の使用段階で、課題解決に高い効果を発揮し、地球と社会のサステナビリティ向上に寄与する製品の創出と市場拡大 積水化学グループは、自然環境および社会環境課題の解決を加速するため、2006年度より製品の評価制度を有しています。社内委員で協議して定めた判定基準をもとに認定登録を行い、基準および考え方やその結果の妥当性に関して、社外アドバイザーよりご意見、アドバイスをいただいています。 2019年度までは、自然環境および社会環境課題の解決に貢献する製品を後押しする制度として「環境貢献製品」の創出と市場拡大を推進してきました。2020年度からは、これまで以上に課題解決が地球および社会のサステナビリティ向上に寄与し、課題解決を持続するためには、企業および製品のサステナビリティ向上が不可欠であることを再認識するために、名称をあらたに「サステナビリティ貢献製品」とし、始動しております。</p>	<p>サステナビリティ貢献製品の売上高・比率の推移</p> <table border="1"> <caption>サステナビリティ貢献製品の売上高・比率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>サステナビリティ貢献製品売上高 (10,000円)</th> <th>総売上高 (10,000円)</th> <th>売上高比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019</td> <td>5,215</td> <td>8,968</td> <td>58.3</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>4,893</td> <td>8,010</td> <td>60.6</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>5,677</td> <td>9,204</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>6,522</td> <td>9,089</td> <td>73.1</td> </tr> <tr> <td>2023</td> <td>6,741</td> <td>8,912</td> <td>75.6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">CO₂削減貢献量</p> <p style="text-align: right; font-size: 24pt;">t-CO₂</p>	年次	サステナビリティ貢献製品売上高 (10,000円)	総売上高 (10,000円)	売上高比率 (%)	2019	5,215	8,968	58.3	2020	4,893	8,010	60.6	2021	5,677	9,204	66.7	2022	6,522	9,089	73.1	2023	6,741	8,912	75.6
年次	サステナビリティ貢献製品売上高 (10,000円)	総売上高 (10,000円)	売上高比率 (%)																						
2019	5,215	8,968	58.3																						
2020	4,893	8,010	60.6																						
2021	5,677	9,204	66.7																						
2022	6,522	9,089	73.1																						
2023	6,741	8,912	75.6																						

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
<p style="text-align: center;">目標および目標設定の考え方</p> <p>2020年度から、より長期の2050年環境ビジョンのもと、製品評価制度を「サステナビリティ貢献製品」として進化、始動しております。 自然環境に加え、社会環境における課題解決への寄与を拡大する製品を推進することは、地球および社会のサステナビリティ向上につながると考えられます。 ただ、そのような製品をつくりつづけ、貢献を拡大していくためには、企業および製品自身のサステナビリティが不可欠です。 そのため、従来の課題解決への寄与に高い効果を有する製品を社内基準により認定するプロセスに加え、あらたに企業および製品のサステナビリティを評価する視点を設けます。 収益性、プロセス評価、サプライチェーン評価などの観点から確認評価を行うことで、持続性を確認し、サステナビリティ向上のための活動を実施していく後押しとなるよう、評価制度を構築し、運営していきます。</p> <p>当工場においても、サステナビリティ貢献製品の売り上げ拡大を図っていきます。</p>

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
<p>積水化学グループ全体で2023年度11件を新たにサステナビリティ貢献製品へ認定しました</p>
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
<p> </p>

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告					
			(23)年度	()年度	()年度	()年度	()年度	
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	60,165	57,654					
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	60,165	57,654					
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.408	0.405					
		0.309	0.360					
特記事項								

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告					
			(23)年度	()年度	()年度	()年度	()年度	
グリーン証書の購 入	t-CO ₂	0	0					
クレジットの購入	t-CO ₂	0	0					
特記事項								

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	公共交通 機関の利 用促進	近隣鉄道駅から工場へのバスを設けている	23年度～	実施中
2	自転車利 用の促進	駐輪場を設置し、更衣室にはシャワールームも設置	23年度～	実施中
3	来場者の 交通対策	近隣鉄道駅から工場へのバスを設けている	23年度～	実施中

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				(23)年度	()年度	()年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台	3	3				
	上記のうち 次世代自動車の数	台	1	1				
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	サーキュラー エコノミー	廃棄物量の抑制、工場内でのリサイクル推進 ゼロエミッションの継続 廃棄物原単位の管理	23年度～	実施中
2	グリーン購入	積水化学グループ方針として、環境負荷の低い商品を環 境負荷の低い取引先から調達する、いわゆる「グリーン 調達」を実施することにより、「調達のグリーン化」を推進	23年度～	実施中
3	環境マネジ メントシステム (EMS)	ISO14001認証の継続 環境マネジメントマニュアルに則った工場管理の継続	23年度～	実施中
4				
5				